

令和4年度 第1回下野市教育委員会臨時会議事録

日 時 令和4年11月17日(木) 午後2時30分～午後3時30分

会 場 下野市立石橋小学校 多目的室

出席委員 教 育 長 石崎 雅也 職務代理者 永山 伸一
委 員 熊田 裕子 委 員 石嶋 和夫
委 員 佐間田 香

出席職員 教育次長 近藤 善昭
教育総務課長 上野 和芳
学校教育課長 石島 直
生涯学習文化課長 浅香 浩幸
文化財課長 山口 耕一
スポーツ振興課長 若林 毅
教育総務課課長補佐 神田 晃
学校教育課管理主事 小野 慎吾
学校教育課主査 若林 達哉
石橋小学校長 設樂 孝男
石橋小学校教頭 小栗 昭彦

公開・非公開の別 公開

傍聴者 1 人

報道機関 0 人

議事録(概要)作成年月日 令和4年12月19日

討 議

「学校運営協議会の更なる活用に向けて」

- (石崎教育長)
1. 開会
 2. 教育長挨拶
 3. 議事録署名人の選任 熊田委員及び石嶋委員を指名
 4. 討議

今回は「学校運営協議会の更なる活用に向けて」という議題で討議を行う。

はじめに、学校運営協議会について、資料1から4に基づき、事務局から説明を求める。

(石島学校教育課長) 資料に基づき説明を行う。

資料1 令和4年度下野市小中学校学校運営協議会開催日程一覧

資料2 各校の学校運営協議会における議題等

資料3 令和4年度下野市学校運営協議会委員一覧

資料4 下野市学校運営協議会運営マニュアル

(石崎教育長) 質疑等はあるか。

(佐間田委員) 協議会委員の推薦及び任命についてである。規則第8号に「(3) 設置学校の運営に資する活動を行う者」とあるが、こちらに該当するのはどのような方なのか。具体的に知りたい。

(石島学校教育課長) 例えば学校支援ボランティア関係の活動に協力いただいている団体の方や、PTA役員の方などが位置づけられている。

(佐間田委員) 委員選出について、保護者の視点から意見を述べたい。国分寺地区では、小学校の先生が中学校の学校運営協議会に、中学校の先生が小学校の学校運営協議会に入っているが、他の地区では他校の先生の選出があまりされていない。協議内容の例として、「小中一貫教育推進への具体的な支援の協議」が挙げられているため、ぜひ国分寺地区と同様の形で、先生を学校運営協議会に入れてほしいと考える。

また、同じく協議内容の例として「学校、家庭及び地域における教育課題解決の協議」も挙げられている。今後、中学校の部活動が地域に移行することを鑑みて、公民館や図書館の方、スポーツクラブの団体の方など、実際に子どもたちを取り巻く人々を委員として選出してほしい。実際に動いてくれる方を選出してほしいのである。今の子どもたちに対してすぐにアクションを起こしてくれる方ならば、子どもたちのための講座の実施や、様々な手伝いをしてくれるかと思うので、保護者としてはぜひそういった方を選出してほしいと考える。

(石島学校教育課長) 先ほどの佐間田委員の発言の中にあつた、公民館関係の方についてである。下野市独自の取組である「地域学校協働活動推進員」は、公民館勤務の方になっていることが多い。そのため、公民館での事業についてアナウンスもできるということで、非常に貴重な人材となっている。また、学校に対して、委員選出

の際「すぐに動ける」という視点も必要であるということ伝えていけるようにしたい。

(石崎教育長)

他に意見等はあるか。

(永山委員)

佐間田委員の発言にあった「すぐに動ける人」というのが、学校運営協議会委員の基本部分だと思っている。そもそもこの学校運営協議会とは「学校の教育活動についての支援参画」をする機関だと考えるのだが、今までの各校の学校運営協議会の議題を見ると、従前の「学校評議員」との混同が起こっているように見受けられる。学校への評価、審議の実施も必要であるが、地域の方々が学校を支え、学校も自分たちで力が及ばないような部分や、先生の人数の関係上、どうしても手が届かない部分について、積極的に地域の方々の手を借りてほしい。そこに学校運営協議会の意味があると考えているのだが、会議内容を見ると、そういった形では動いていないのではないかという懸念を覚える。

(石島学校教育課長)

学校運営協議会を立ち上げた当初は、教育委員会事務局も参加していたが、軌道に乗った後は、定期的に行っている地域学校協働活動推進員を集めた会議で、学校の情報をもっている状況であった。確かに永山委員の述べたとおり、例年踏襲的な内容になっている学校もあると思われるので、確認し、てこ入れをしていく必要があると考える。

(永山委員)

昔はPTAのボランティアだけで学校のサポートができていたように思う。しかし現在、保護者の方々は皆仕事を持っているのが普通になっているため、なかなかPTAのボランティア活動も難しい状態になってきている。学校の先生だけでは支えきれず、PTAの保護者の方々だけでも支えきれない。そこで、支えきれない部分を地域の方々に頼るのである。そういった意味で地域を巻き込んで学校について考えていこうというのがコミュニティスクールの考え方である。根本的に考え方を改め、「こういう考え方で学校運営協議会を設置している」という部分をもう一度確認してほしい。

(石崎教育長)

他に意見等はあるか。

(熊田委員)

私は2つの学校で学校運営協議会委員を務めているため、学校運営協議会の現状について述べたい。今回提示された資料「各校の学校運営協議会における議題等」は、内容を簡単にまとめたものであり、実際はもう少し細かく「学校で困っていることはないですか」という形で確認をして、各校においてもう一歩進んだことをやっているのではないかと思う。私も学校運営協議会において、具体的な内容の話合いを経験している。それがコロナ禍の影響で「もう少し進めたいが、状況を鑑みると難しい」というところで止まっているように感じた。コロナウイル

スの感染状況がもう少し落ち着けば、学校と地域で話し合いをしつつ、より一層、地域の活用について検討していけるのではないかと思う。

(石崎教育長)

他に意見等はあるか。

(佐間田委員)

この場に校長先生もいるため、保護者としてもう一点意見を述べたい。各校の学校だよりが毎月教育委員会定例会の際に配布されるが、その際に貰うプリントは、カラー刷りのとても鮮明で綺麗なものである。しかし、保護者に配布されるものは白黒刷りであり、写真は不鮮明で、どこに自分の子どもが写っているのか分からないことが多い。保護者は、自分の子どもが写った鮮明で綺麗な写真が見たいのではないかと思う。そこで例えば、学校だよりを配布した後、メールで「学校だよりを配布しました」とお知らせを配信し、「学校だより掲載写真のカラー版を学校のホームページに掲載したので、ぜひご覧ください」というように、学校のホームページに保護者を案内する。そしてホームページに「今月のボランティア募集」など、ボランティア協力のお願いを掲載するのである。1年間継続してのボランティア活動は保護者にとっても難しいと思うが、自分の子どもが所属しているクラスや学年の手伝いならしてくれる方はいるかと思う。このようにホームページに保護者を引き込み、ボランティアと一緒に学校を支えていけると良いのではないかと考えた。

(設楽校長)

学校運営協議会でも、学校だよりについてはカラーのほうが良いという意見が出ていたのだが、学校予算の関係上難しく、実施できずにいた。既に学校のホームページには、学校だよりをカラーで掲載しているため、紙の学校だよりの中に「ホームページにカラーのものを掲載しています」という文言を入れるだけでも確かに違うなと感じた。これから取り入れていきたい。また、紙面に学校のホームページにつながる二次元バーコードを掲載している学校もあるようである。

(佐間田委員)

可能であれば、保護者宛てメールで通知してほしい。また、他の学校にも周知してほしい。

(石崎教育長)

他の学校の状況はどうなっているのか。

(石島学校教育課長)

学校だよりについては、ホームページでほとんどの学校が公開している。また先ほど設楽校長が述べたとおり、学校だよりには二次元バーコードが示されており、スマホ等で写すことによって学校のホームページを見ることができる。また、トップページには学校だよりのページへつながるリンクが貼り付けてあり、そこからカラーの写真が見られるようになっているようである。設楽校長に尋ねるが、校長会においてそういった話題が出たため、学校だよりに二次元バーコードを示す学校が増えた

のか。

(設楽校長)

私を知る範囲では、二次元バーコードの話題は校長会では挙がっていない。前校長が二次元バーコードを載せていたのだが、そこからだんだん市内に広がっていったのではないかと思う。

(石崎教育長)

学校だよりは、全ての公民館に掲示しているのか。

(浅香生涯学習文化課長)

配布されたものを各公民館に掲示している。

(石崎教育長)

国分寺公民館には国分寺地区3小中学校の、カラー刷りの学校だよりが掲示されており、公民館利用者の方々に人気だと聞いたことがある。「自分の子どもは載っていないけれども、地域の子どもたちの様子が見られるのは楽しい」とのことである。こういった掲示により「地域とともにある学校」としての在り方が進んでいるという部分もあるため、学校だよりについては大事にしてほしい。保護者の方々に対してはもちろん、地域の方々に対しても示すことを続けてほしい。

他に意見等はあるか。

(永山委員)

先生方も、もう少し学校運営協議会を頼ってほしいと思う。学校訪問での懇談会の際「こういう部分が大変だ」という話が多く出るのだが、学校運営協議会に頼めば手伝ってもらえそうこともその中に含まれていることが多い。全て自分たちの手で完結しなくてはならないという責任感から、先生方はなかなか仕事を手放せないということもあるかと思うが、「こういうことを地域の方に手伝ってもらいたい」という意見を先生方から積極的に出してもらえると、学校運営協議会も変わるのではないかと思う。学校運営協議会担当の先生だけが考えるのではなく、先生一人一人が、学校運営協議会に手伝ってほしいことを洗い出すことも必要だと感じた。

(石崎教育長)

付け加える。先日の学校運営協議会の研修会でも同じような話が出ていた。地域の方々には「これがやりたい」「あれがやりたい」というアイデアがたくさんあるが、先生方や学校の反応を見ると、少し敷居が高いなど感じる場面があるとのことである。特に中学校。小学校は実際に教科や備品の関係で、地域の方々に中に入ってもらうこともあるが、中学校になると子どもだけの往復になってしまい、学校の中だけで完結してしまう場面もあるため、注意が必要である。

(永山委員)

以前、学校に女性の先生が多く配置され、男性の先生があまりおらず、運動会の準備がかなり大変だったというような話を聞いたが、今考えてみると、運動会の準備は必ずしも先生で全て行わなくてはならないものではない。地域の方々に手伝いをお願いしても良いと思う。

(石崎教育長)

小学校では、地域の方に運動会の準備を手伝ってもらっているところもあるため、同様のことはできるかと思う。この件に

ついて他に意見等はあるか。

(熊田委員)

学校の先生方も「地域の方々に頼みたい」という気持ちがあるが、こんなことを頼んだら申し訳ないと遠慮しているのではないかと思う。私が委員を務めている学校運営協議会にはボランティアの代表もおり、学校運営協議会の後で学校に「何か手伝うことはありますか」と声をかけたりする。今はコロナ禍のため、手伝いができる場面は多くないが、こういった形で地域からアプローチをしていってもいいのではないかと感じる。また、佐間田委員が述べたとおり、保護者の中にも連絡をもらえば手伝いができるという方も多いのではないかと思う。子どもと接するボランティアは保護者の方の参加率が高いと思うので、まず学校から保護者に連絡をして、それでも足りないところを地域が埋めるような形をとると良いのではないか。学校、保護者、地域の三者がWin-Winの関係でいられるのが良いと思う。また、地域から学校に顔を出したり、連絡を取ったりして、その関係をコーディネートする人がいるといいと感じた。

(永山委員)

すぐに動ける方が多い学校運営協議会も確かにある。このような布陣にすると、学校運営協議会はより良い方向に動くのではないかと思う。

(熊田委員)

年齢の関係や忙しさで学校運営協議会を辞めてしまう方もおり、次に学校運営協議会の委員になってくれる人を探すのが難しいのが悩みの種である。良い人材を見つけたかと思うと、仕事で忙しいということで断られてしまうこともある。

(石崎教育長)

熊田委員が述べたとおり、学校運営協議会には様々な立場の方がいる。以前「学校運営協議会には学校と地域を結びつけてくれるコーディネーターのような方が望ましい」ということを聞いた。地域が学校になかなか入れない状況を打破してくれる方がまさしく学校運営協議会であり、何かがあってから学校に対して意見を言うのではなく、地域と学校を結び付けるあり方が望ましいということであった。

(永山委員)

行動が伴う方が望ましいと感じる。

(石崎教育長)

他に意見等はあるか。

(佐間田委員)

7月に文部科学省主催の教育委員協議会に参加したのだが、その中で地域協働について他市町村の方とオンラインで協議した。その際、どんな人材をどのように集めてくるのかという話になり、すぐにアクションを起こしてくれる方をどこで見つけてくるのか他市町村の方に聞いたところ、「PTA会長さんは、子どもたちのそばにいてすぐ動いてくださる方の情報をよく知っているので、そこで情報収集をするといい」ということを話していた。

(石崎教育長)

事務局に尋ねる。今まで挙げた意見に関する事例等はある

(浅香生涯学習文化課長)

か。説明を求める。

生涯学習文化課は、大きな意味で地域学校協働活動について推進していく立場になる。そして、地域学校協働活動の中核として期待されているのが学校運営協議会委員である。熊田委員のように、実際に学校運営協議会委員でありながら、なおかつ地域と学校の協働活動に取り組んでいる方も多くいる。生涯学習情報センターのボランティアバンクに登録している方であれば、その中から人材を探ることができるかと思う。なお、ボランティアバンクについては、校長会等で周知を行っている。

本日補足として、文科省で作成した「学校運営協議会の意義」等を説明した資料を配布した。「地域における教育力の低下」「学校を取り巻く問題の複雑化・困難化」「社会に開かれた教育課程に対する地域理解」など、様々な課題を解決するため、地域と学校が手を携え活動していく必要がある。そのため、政策として地域と学校の連携・協働体制を一体的に促進するのが望ましいと記載がある。学校長を代表とする学校と学校運営協議会がそれぞれつながりながら、地域学校協働活動推進員（コーディネーター）と共に、地域で様々な資源を活用し、地域と学校の協働活動を行っていくというのが、国が掲げた推進体制となっている。

しかし、文科省の図面や学校運営協議会運営マニュアルのみでは具体的な内容が見て取れないため、先ほど教育長が述べたとおり、生涯学習文化課では実践例などについて、学校運営協議会委員や各学校に配置されている地域連携教員を対象に、研修会を開催している。地域学校協働活動と一口に言っても、それぞれの学校・地域によって抱えている課題や特性というのは様々であるため、一律に「地域学校協働活動としてこういったことを実施してください」と説明するわけではない。学校運営を評価するだけでなく、地域ごとの課題や困りごとに対し、学校の特色や地域の特色、委員の特技なども生かしながら、実際に関わっていこうとする学校運営協議会になることが、地域学校協働活動を進めていくことにつながる。そのため、こういった研修会を引き続き開催していきたいと考えている。

(石崎教育長)

今の説明に関して質疑等はあるか。（特になし）

それでは、私から一点尋ねる。下野市学校運営協議会運営マニュアルの下野市学校運営協議会の趣旨に「『地域でどのような子どもたちを育てるのか』『何を実現していくのか』という目標やビジョンを、地域（保護者・地域住民等）と学校が共有し」と書かれている。確かに共有は行われていると思うが、共有という言葉が「学校側で決めたものを地域に理解してもらう」という意味合いで使われている可能性がある。どのような子ど

もたちを育てたいのか、子どもたちにどのような期待をしたいのかなどを決める際に、地域住民の考えは反映されているかどうか疑問なのだが。

(石島学校教育課長)

全ての地域の方から意見を聞くというのは、各学校とも難しいというのが実情かと思う。各学校の学校運営協議会の方が地域の窓口となり、普段の子どもたちの様子を見ての感想・意見や、こんな子どもたちを育てたいという意見を、「地域の願い」として受け止めているのが現状である。学校運営協議会の委員も、地域の窓口としての役割を担っているという意識を持っている方が非常に多い。確かに、より多くの地域の意見を集めるという観点からすると、他の手立ても必要だと感じる。

(石崎教育長)

本日配布の資料「各校の学校運営協議会における議題等」を見ても、地域と学校が目標やビジョンの共有をしているとはあまり感じられない。今年ではなく数年前に「子どもたちの姿」についての話し合いの場を設けているかもしれないが、数年経てば子どもたちも入れ替わるため、新たに協議し直すべき内容だと思う。

活動が行事の参観のみになっている学校運営協議会は、在り方としていかなものかと思う。そういった状況は無いとは思いたい、心配している。

(熊田委員)

平成30年度から学校運営協議会の制度が始まり、私も長く関わってきた。この5年の中で、その年ごとの課題点や児童生徒の状況についての話し合いの場は持たれてきたかと思う。資料については各学校から提供してもらっているかもしれないが。

例えば、子どもたちの投げる力、運動能力が低下しているということで、運動能力を高めたいという意見が学校運営協議会で挙げたことがある。これを受けて、キンボールやソフトバレーボールの指導をしてくれた方が委員の中にいた。今はその方は学校運営協議会を辞めており、指導はしていないのだが。継続的な指導ができるとより良いと思うが、所属する人材や年齢層によって難しいところがあるかと思う。

また、地域の見守りの必要性から、各小学校で防犯グッズを作って意識強化をしようという意見が出されたことがある。私が所属している地域でも、バッジを作って配布をしている。

このように、実際に動いてくれる方がおり、地域の状況に合わせて活動をしているところもあるため、ある程度地域の意見が反映されているところもあるかと思う。

(佐間田委員)

先ほど文部科学省の研修にて耳にした他市町村の事例について紹介したが、もう一つ事例を紹介する。地域で活躍している自治会長等は先生方よりも年上の方が多く、そういった方々とフラットな関係を作り、様々な依頼をすることを難しく感じて

いる先生もいる。それを解消するために、まず先生方に地域の行事に参加してもらおうのである。先生方はただでさえ仕事が多く、大変だとは思っているのだが、そういった場から地域の方々とフラットな関係を築き、話し合いにつなげているという地域もあるそうだ。

意見が活発に出される有意義な会議であれば良いが、意見が出されずに静まり返っている会議も確かにある。そういった場で、果たして学校も地域もお互い意見が言えるのかと心配になったことがある。会議の状況にも地域差があるのではないかと。

(永山委員)

学校運営協議会の地域差についてであるが、委員を選ぶときの校長の判断もかなり影響するのではないかと思う。とりあえず人数を揃えるために、人づてで候補者を探したりすると、本当に必要な人材が確保できないのではないかと。先ほど浅香生涯学習文化課長からボランティアバンク登録者の話があったが、まず資料をしっかりと確認し、その後本人に直接会って話を聞き、丁寧に委員を選定するのが大切である。人選の部分は最も大切になってくる。先生方に、どういった人材が必要か、本当に欲しい人材はどういう人材かを考えてもらい、それに合わせた人材確保が必要かと思う。

(石崎教育長)

石橋小学校における学校運営協議会の委員の選出方法や、実際の活動内容、また、困難に感じていることなどがあれば聞かせてほしい。

(小栗教頭)

委員の選出方法についてである。前年度の時点で「今回で辞めたい」という方が出た際、その方に次の方を紹介してもらっている。地域のことをよく知っている方を何人か紹介してもらおうことになるのだが、委員からの情報しか学校は持っていない状況である。先ほどの話にもあったが、すぐに動いてくれる方や即実践ができる方が確かにほしい。そのため、地域のコーディネーターが学校ごと1人いると助かる。また、行政の方からコーディネーターの候補を紹介してもらおうと、どの学校も助かるのではないかと考える。

(設楽校長)

他の学校の話になるのだが、人選が非常に難しいと聞いている。学校側の希望はあるが、それに合致する方が見つからないようである。また、委員が辞める際、次の委員候補の方を推薦してもらおうことがあるが、必ずしも推薦された方が、学校の希望しているような方であるとは限らない。推薦してもらったのにも関わらず断るとするのは難しく、その辺りでの苦労がかなりあるようだ。

また、地域の方の「子どもたちの姿」に関する意見についてであるが、やはり石島学校教育課長が述べたとおり、地域全体

の把握は難しい。2月頃に学校運営協議会で学校評価を行うのだが、その際に委員の方から話を聞き、どういった子どもを育てていくのかについて、地域の意見を取り入れていた。どちらかというとな年度の前半よりも後半に、委員の意見を聞くことが多かったかと思う。

(石崎教育長)

その他、意見等はあるか。

(石嶋委員)

私の地区には小中学生がほとんどいない。そのため、お神輿もここ2年は巡行も休み、子ども会育成会も休みになったため、廃品回収も実施しなくなってしまった。

小中学生がいなくなってしまった地域の意識を、どのように学校につなげるか、その方策を考える必要があるかと思う。私はスクールガードボランティアとして活動しているため、学校との直接的なつながりがある。しかし、ボランティア等に参加していない人は、地域に子どもがいなければ、学校へ意識が向かないのではないか。どのように地域住民の意識を学校へつなげるのがいいのかと、皆さんの話を聞きながら考えていた。

私はスクールガードボランティアを、自分の自治会ではなく、隣の自治会の登校班で行っている。隣の自治会にはまだ子どもたちがいるため、そちらに出向くのである。こういった何らかの地域のつなぎ方を考えなければ、学校に対する意識を持ってもらうのはかなり難しいのではないかと感じた。

(石崎教育長)

石嶋委員の意見に対して何か意見等はあるか。

(熊田委員)

私が住む地域には比較的子どもが多く住んでいる。やはり人数は減ってきているが、近所で子どもの声がするようなところではあるため、学校の活動に参加しやすい環境ではあると思う。

以前、地域の防災推進部会の方と話をした際、「自治会で防災訓練をやっても人があまり集まらない。防災意識を高めるにはどうしたらいいか」という話が出た。そこで、小学校や中学校の防災訓練で消防車を呼んだり消火器の使い方を学んだりすることがあるかと思うが、その訓練に地域の人が参加できると、楽しく防災訓練ができて、参加率も上がるのではないかという話がでた。現在コロナ禍でこういった防災訓練を実施しているところが少ないかとは思っているのだが、地域の方への紹介は学校運営協議会で実施し、地域の方に学校での防災訓練に参加してもらおうような方法があるのではないかと思った。

(石嶋委員)

学校行事に絡めるというのは、コロナ禍が落ち着いたら可能かもしれない。

(佐間田委員)

各地域の高齢者の手伝いをするような福祉系のボランティアに中学生を参加させて、高齢者と子どもとの結びつきの場を作れないか。そうすることで、子どもたちの「地域の役に立っている」という意識が高まるのではないかと感じる。

(石島学校教育課長)

コロナ禍以前は、南河内中学校の福祉系の委員会の生徒が、高齢者施設に行ったり、国分寺中学校の生徒が病院を訪問したりしていたときもあった。

(小野管理主事)

コロナ禍前は、中学校の職場体験で高齢者福祉施設を訪れたり、福祉系の委員会が高齢者福祉施設でボランティア活動をしたりということがあったのだが、去年はほとんど実施できていないと思う。平日に高齢者福祉施設を訪れるとなると、生徒たちをどういった位置付けでそこに連れていくのか、生徒たちは何をするのかという部分の難しさがあり、逆に休日や祝日での実施になると、先生方に負担をかけてしまうこととなる。そういった部分で実施が難しい。

(石嶋委員)

個人情報の問題もある。以前私がいた学校では、福祉委員会が1人暮らしのお年寄りに年賀はがきを書いていた。しかし「どうして1人暮らしだということがわかったんだ」と苦情が入り、福祉委員会の活動を中断したのである。行っていることは良いことなのだが、個人情報という観点からは問題があった。

(石崎教育長)

私が中学校の現場にいた頃も行っていたが、最近の状況では少し難しいと感じる。

他に意見等はあるか。(特になし)

それでは、最後に私から一点述べる。私が以前勤めていた学校では、PTA役員が5、6年間継続して学校を支えるという伝統があり、そのおかげで学校と地域と結びつくことができていた。あくまでもこれは例だが、先ほど述べたとおり、地域と深く結びつき、地域と学校のつながりのコーディネートをしてくれる立場の方はやはり大切だと考える。

それでは、以上でよろしいか。(全委員異議なし)

次回の教育委員会は、11月18日(金)午後1時30分からの予定とする。

本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午後3時30分閉会。

議事録作成者

議事録署名人

議事録署名人